

「間伐材を使った木工品」

一丸太のスツールー

岩手県立盛岡農業高等学校

○丸山 真 ○八木田将司 ○三田村勝敏

中村 光一 千葉 幸喜 三浦 雅輝 佐藤徳洋

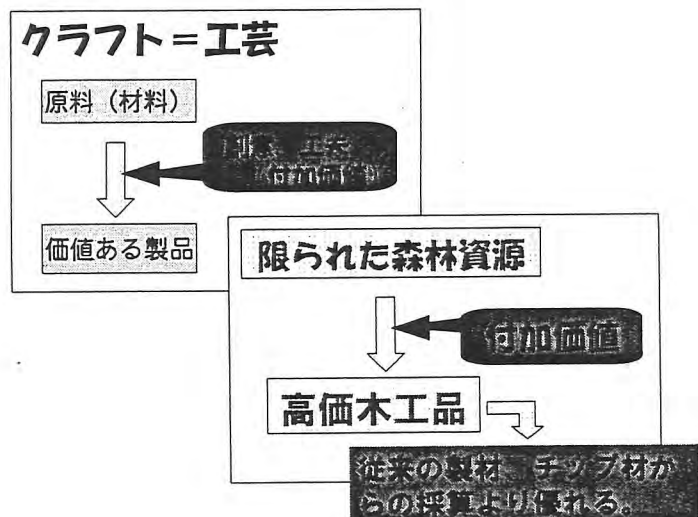
1、はじめに

現在、私達は近代的な環境の中で大変便利な生活を過ごしています。しかし、都会で暮らす人達はどこか自然を懐かしみ恋しく思っています。いつしか、寒々した近代的な生活の中に自然の良さを取り入れることから、心のやすらぎを求めて行く様になっています。

また、わが国では、林業界のかかえる問題として、後継者問題や従来からの切り売り型による採算性悪化などの悩みをもち、特に日本特有の山岳地帯の森林資源の利用が、これから先100年、200年を考え保存資源であると共に有効利用する再生資源としていかに考えて行くかが大きな問題となります。そんな、限られた森林資源をどのような方法で有効利用するかが、これからの林業界の新しい産業構造ではないでしょうか。そして、この様な問題を解決できる方法がクラフトだと思えます。クラフトとは工芸のことで、材料、原料に人間の創意、工夫といった付加価値を加え商品価値を高めた製品を作り出すことです。すなわち、限られた森林資源に多くの付加価値を加え、今までの製材やチップからの採算よりもクラフトとして商品価値を高めたものを作り出し、採算性を高めるのです。

森林クラフトとは1本の木の根元から枝の先まですべての部分に創意、工夫をほどこし、木工品へと作り上げることです。こう言った新たな森林利用の方法を取り入れることが林業の新しい産業構造につながると思えます。

この様に、生活空間に自然を求めるようになった消費者側と、新たな林業としてクラフト工芸品を作り出す生産側が、確実に結び付き相思相愛となり、これからの21世紀に向け大きな夢と希望が持てるようになります。



2、目的

私達は、現代の生活空間に、豊かさや心の充実、安らぎを取り入れると共に、新たなる

林業構造の導入として間伐材からの木工品を作り有効利用に役立てることを考え、林業一般の授業で伐木した木を使って丸太の椅子を作ることとした。

3、実施内容

(1)伐木（間伐）

林業一般の授業で、学校防風林の杉を二人一組の班として1本、のこぎりを使用して伐木しました。

(2)枝払い、皮剥き

伐木した木の枝を全て切り取り、樹皮をはぎ取りました。

(3)玉きり

皮きした木を運搬できるサイズの丸太に切断しました。

(4)椅子の作成

ア、設計図作成

設計図を作成しました。完成図、側面図、上面図 展開図を描きました。

座席部分に伐木からの丸太を使い、脚の部分は安くて丈夫な2×4材を使用しました。丸太と2×4材の接合には90ミリの木用ネジを使いました。木ネジの頭をかくすためにネジの上からダボを打ち込みました。

丸太の椅子以外にも、丸太を半分に切り座席部分とした半丸太椅子や、耳付き一枚板を使った椅子も作成しました。

イ、丸太の加工

帯鋸、のこぎりを使い必要サイズに丸太を切断しました。

ウ、2×4材の加工

昇降盤、のこぎりを使い脚の部分となる2×4材を切断しました。

エ、磨き

切りそろえた丸太、2×4材をベルトサンダー、オービルサンダー、紙やすりを使い磨きました。

オ、塗装

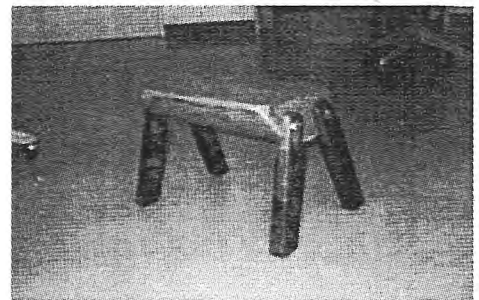
丸太部分には、透明防腐防虫ステイン塗料、2×4材部分には、着色性防腐防虫ステイン塗料（マホガニー）を塗りました。

カ、組み立て

組み立ては図の様にしました。

キ、椅子の完成

丸太を半分にした椅子、耳付き一枚板の椅子に関しても同様の接合方法を取り作成させました。



5、結果、評価

(1) 丸太のいす

- ・丸太そのものを使っているのも木目が美しく、木の雰囲気が伝わり森林クラフト作品としては成功でした。
- ・座席部分が丸太の切口だけなので狭くて座りにくいものとなりました。
- ・丸太の上下部分で直径が一定ではなく脚の付け方が難しく、脚が内開き、外開きになり不安定な感じがありました。
- ・丸太にひび割れが入りました。

(2) 半丸太いす

- ・丸太のひと味変わった雰囲気が伝わりました。
- ・丸太を半分に割り側面が広がったので座席部分が大きくなり座りやすかったです。
- ・木目の面が上部、側部と多いので工芸的感覚にすぐれた作品となりました。

(3) 一枚板いす

- ・大作なので見た目が素晴らしく重厚かつ貫禄のある作品となりました。
- ・一枚板の木目が美しく豪華に生かされた。

(4) 3つの作品全体を通じて

- ・脚の部分の着色塗装にむらが多く仕上がりが悪かったです。
- ・ダボ部分の取り付けが雑でした。
- ・全てのいすにおいて、座席部分と脚の部分の接合がしっかりできました。

(5) 経費 今回、丸太の椅子作成にかかった経費は約330円でした。

(6) 販売 販売においては盛農祭に出展販売した15の椅子全てが売れました。

6、考察

- ・特に塗装の仕方、ダボの打ち込みといった少し繊細な作業が雑になり、完成度の高い作品にするためもっと丁寧な作業を行わなければならない。
- ・脚の部分に市販の2×4材を使用しましたが、全ての部分を間伐材で作成できるように、さらなる工夫を考えたい。
- ・大型丸太を使ってのベンチ作成にこぎつきたい。そのためにも、効率のよい丸太の切断方法を考える必要がある。
- ・丸太に生じるひび割れ防止のため、あらかじめ切れ込みを入れてはどうか。
- ・入手できる間伐材に合わせた様々な形、大きさの作品を考案したい。
- ・丸太だけではなく1本の樹の各部を全て使った作品作りを目指したい。
- ・作品の売行きから、木工品への関心度が高いことがわかり、1本の樹木との付き合い方の重要性がわかった。森林クラフトが、新たな林産業の一つになり売れる可能性を確認す。

